

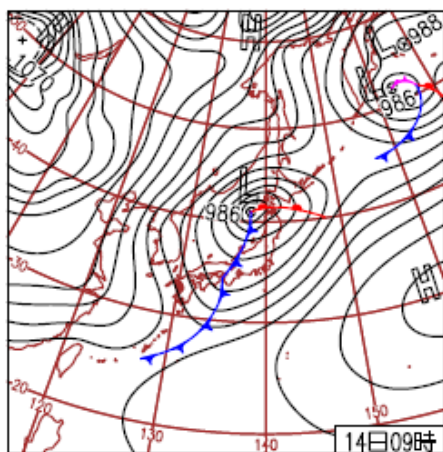
気象コラム(10)

前々回の本稿で「木枯らし一号」の話をしましたので、少し気が早いですが、木枯らし一号と対ともいえる「春一番」のことを少し書きたいと思います。

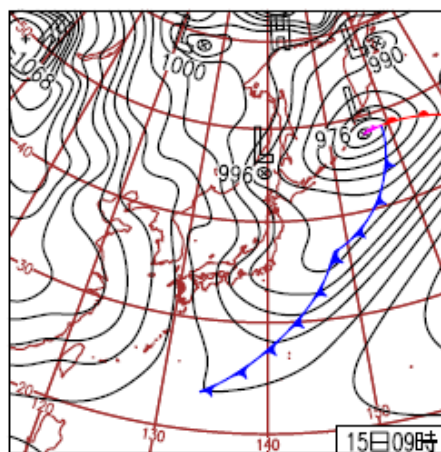
まず、春一番の定義について、気象庁ホームページの「はれるんランド」から引用すると、「2月4日ごろの立春（りっしゅん）から3月21日ごろの春分（しゅんぶん）までの間に、日本海で低気圧が発達し、初めて南よりの毎秒8メートル以上の風が吹き、気温が上がる現象のことです。この強い南風は、竜巻などの突風（とっふう）を伴うこともあり、注意が必要です。」とのこと。

この低気圧が通過した後は、強い冬型の気圧配置になって山では荒天になることが多く、引き続き注意が必要です。また、「毎秒8メートル以上の風」というのは平地での話ですので、山ではもっと強い風が吹くと考えていいでしょう。「春一番」という言葉の響きからは、つい穏やかな印象を持ってしまいがちですが、天気予報で春一番が予想されるときは「荒れる」と予想されていると理解してください。

2017年は2月17日、2016年は2月14日に春一番が吹きました。参考のために2016年の春一番が吹いた日とその翌日の天気図を掲載します。



14日(日)各地で春一番



15日(月)春の嵐から一転冬型へ

ちなみに、「木枯らし一号」が発表されるのは「一号」だけで、「二号」や「三号」はないとのことでしたが、「春一番」についても気象庁からの発表は「一番」だけだそうです。一般に使われる言葉としては「春二番」や「春三番」もあるようですが、また、立春より前であっても、日本海低気圧が通過して強い南よりの風が吹くことはあります。「春ゼロ番」や「マイナス一番」とは言いませんが、同じような天気図のときは同じような現象が生じますので、似た気象状況の日には山に行くときは十分注意してください。

(高田和孝/H.C.teruru)